

## 平成 29 年度長野市地域包括支援センター事業報告（活動報告）

全てのセンターで運営方針に基づいた事業を実施しておりますが、本報告は、運営方針や計画作成の留意点に記述されていないような各センターで工夫された取組、業務の具体的な取組報告等について概要をまとめたものです。

### 1 地域包括支援センター業務推進体制

#### 〈自己評価の視点〉

- ①平成 30 年度地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成されている。
- ②平成 29 年度地域包括支援センター「事業報告」が適切に作成されている。
- ③3 職種連携によるチームアプローチが適切に行われている。
- ④職員の資質向上に対する取組を適切に行っている。
- ⑤個人情報の取扱い等、情報管理を適切に行っている。

#### 《業務実施事例》

- 昨年度業務に関し、所属長と面談の上、評価を行い、次年度に活かしている。 (松代総合病院)
- 職員全員で自己評価を行い、事業報告に反映させた。 (にしつるが)
- 月 1 回、法人理事長や法人内他事業所の代表者が出席する会議を置き、センターの運営状況の報告等を行い、必要な指示や助言を受けて、日常業務に反映させた。 (富竹の里)
- 24 時間体制で連絡の取れる体制を確保し、夜間休日の緊急対応に備えてきた。 (安茂里、星のさと)
- 転送電話を用いて、休日でも相談及び訪問ができるよう職員が交代で対応した。 (にしつるが)
- 電話対応時に困難だった事例について、カンファレンスしてその原因と解決方法を検討 (博愛の園)
- 支援困難なケースには、二人訪問体制を取っている。 (博愛の園)
- 3 職種毎に主務となる内容の研修に参加し、伝達研修を行なっている。 (星のさと)
- 外部研修受講後に勉強会等フィードバックを行っている。 (わかほ)
- 週 1 回、院内地域医療連携室も交えてミーティングを行い、意見を取り入れている。(新町病院)
- 院内で開催される倫理や接遇、救命処置方法等の研修会に参加し、資質向上に努めている。 (松代総合病院)
- 法人内で経験年数別による研修を実施。 (豊野)
- 個人情報管理表を作成し、ケースファイルの持ち出し管理を徹底している。 (きたながいけ)
- 個人情報の電子データについては、パスワードで管理している。 (ニチイケア)
- 個人情報に関する学習会について、地域のケアマネを交えて開催。 (博愛の園)

## 2 総合相談支援業務

### 〈自己評価の視点〉

- ①地域における多職種協働によるネットワークの構築とその活用を進めている。
- ②高齢者の実態把握を適切に行っている。
- ③認知症高齢者及び家族への支援に取り組んでいる。
- ④初期対応を適切に行い課題を明確化した上で、各業務へつなげている。
- ⑤公正かつ中立な立場で、継続的・専門的相談支援を適切に行っている。

### 《業務実施事例》

- 民生委員との連携を図り、情報を得やすくし、負担感を抱く委員の精神的なサポートを行なった。  
(安茂里)
- お茶のみサロンでの講師を務めセンター利用のPR、認知症予防、脳トレに関する講話を行なった。  
(安茂里)
- 個別地域ケア会議を毎月定期開催し、多職種が参加して検討するとともに、障害サービスの関係者も出席することでネットワークが広がった。  
(豊野)
- 障害分野の事務所とも連携し、障害サービスから介護保険サービスへの移行がスムーズに行えるよう調整している。  
(若槻)
- 専門的支援の要不要を判断した上で、インフォーマルを含めた支援の方法を提案 (ニチイケア)
- 月1回の気づきの事例検討会で薬剤師とのネットワーク構築の実施 (星のさと)
- 3ヵ月に1回、保健センター・障害支援相談機関との連絡会を開催し、情報の共有や課題の把握、ケース検討を行う。また、刑務所から出所した高齢者への支援にあたり、地域生活定着センターと救護施設、保護観察所と連携し、介護支援や施設の調整を行う。  
(にしつるが)
- 医療機関からの退院支援の相談に対して、速やかに対応し、適切なサービスや機関につなげている。  
(富竹の里)
- 毎月、地区を決めて、民生委員と連携しながら実態把握を実施 (吉田)
- 多重問題のある家庭等、困難事例については2人以上で対応した。  
(新町病院)
- オレンジカフェを開催し、認知症高齢者やその家族を支援している。  
(吉田、わかほ、安茂里、若槻、ニチイケア、星のさと、にしつるが、松代総合病院)
- 認知症サポーター養成講座などキャラバンメイトの継続的な活動を行った。  
(安茂里)
- 認知機能低下により金銭管理やごみ出しが出来ない独居高齢者について、生活支援課と連携しながら、社協の日常生活支援事業に繋いだ。  
(芹田)
- 介護者のつどいを開催して、同じ立場の人同士での交流し、日頃の思いを話せる場を作った。  
(コスモス)
- 初期相談に対して、相談内容を整理し、必要に応じて初期集中支援チームと連携している。  
(若槻)

### 3 権利擁護業務

#### 〈自己評価の視点〉

- ①権利擁護に関する啓発活動を適切に行っている。
- ②高齢者虐待への対応において、関係機関と連携した通報、支援体制を整え、高齢者虐待事例への対応を適切に行っている。
- ③成年後見制度、社協の日常生活自立支援事業・暮らしのあんしんサービス事業等の活用を促進している。
- ④消費者被害への対応を適切に行っている。
- ⑤高齢者の権利擁護に関して、職員の資質向上に対する取組みを適切に行っている。

#### 《業務実施事例》

- お茶のみサロンなど高齢者が集まる場で、新聞記事や警察の発表している事案を用いて注意喚起を行った。 (桜ホーム、安茂里、豊野、博愛の園、ニチイケア、星のさと)
- 介護者教室において、長野県出前講座を活用し、特殊詐欺に関する講座を開催した。(わかほ)
- 民生委員に対して、高齢者の人権についての講話を実施 (安茂里)
  
- 高齢者虐待に関する通報受付・支援体制について、24時間対応している。 (コスモス)
- 高齢者虐待に係る個々のケースについて、ケアマネジャーと連絡を取って経過を確認している。 (若槻)
- 高齢者虐待に対応するため、関係機関と連携し、対応計画を作成している。 (富竹の里)
  
- 地域からの相談を受け、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業に結び付けた。(安茂里、三輪)
- 子のない認知症の高齢者夫婦について、成年後見センターと連携し、親族申し立て、生活保護申請の支援を行った。 (きたながいけ)
  
- 長野県弁護士会に依頼し、消費者被害の出前講座を開催した。 (篠ノ井病院)
- 法律が絡む問題については、法テラスの弁護士に相談するよう、情報提供している。(富竹の里)
  
- 高齢者の権利擁護に関する外部研修に参加した後、事業所内で報告会・勉強会を開催。(わかほ)
- 事務所内で高齢者虐待対応マニュアルの確認を行っている。 (吉田)

#### 4 包括的・継続的ケアマネジメント業務

〈自己評価の視点〉

- ①地域のケアマネジャーに対する個別支援を適切に行っている。
- ②地域包括ケアに向けての体制作りを適切に行っている。

##### 《業務実施事例》

- 管内介護支援事業所を個別訪問して、情報提供・ケース相談を実施。 (きたながいけ)
- 介護支援事業所及び介護支援専門員への個別支援、相談支援、研修会開催等を実施 (星のさと)
- 介護支援専門員に対し、「自立支援に向けたケアプラン作成の考え方」をテーマに研修会を開催。また、地域医療機関との連携に向けて、認定訪問看護師を講師に在宅医療をテーマに研修会を開催。 (安茂里)
- 地域の資源の情報収集、とりまとめを行い、ケアマネジャーに提供。(コスモス、きたながいけ)
- ケアマネ連絡会を通じて、ケアマネジャー同士のネットワーク構築を図る。 (篠ノ井病院)
- 地区検討会や住民自治協議会健康福祉部会に出席し、住民自治協議会との連携を図った。 (吉田、豊野)
- 地域での体操教室づくりや運営に協力した。 (若槻)
- オレンジカフェの集いを通じて、地域住民との関係づくりの場を作った。 (桜ホーム)
- 体制づくりの一環として、管内における薬剤師とケアマネジャーとの連絡会を開催。(わかほ)
- 医療機関への対応に窮しているケースに対し、在宅医療・介護連携支援センターに相談、紹介を行う。 (にしつるが)

## 5 介護予防ケアマネジメント（介護予防・日常生活支援総合事業）

### 〈自己評価の視点〉

- ①要支援者等の多様なニーズを把握し、適切なアセスメントのもとに、利用者本人が望む生活という意欲に対して働きかけながらケアマネジメントを進めている。

### 《業務実施事例》

- 総合事業のサービス利用について丁寧に説明し、自立を目指すことの理解を得るよう努めている。  
(きたながいけ)
- こうなりたいと思う本人の想いを聞きだし、本人の意欲を引出せるよう自立支援を行った。(三輪)
- 自立支援に向けた活動や社会参加の目標を一緒に考え、期間設定をすることで卒業を意識した取組を働きかけている。興味・関心チェックリストや課題分析アセスメントシートを活用して具体的な目標設定に向けた課題分析を行なっている。  
(安茂里)
- サービスありきのプランは立てない。自立支援の考え方に基づいて、月1回事務所内で事例検討会を実施する。  
(篠ノ井病院)
- 目標の達成が行えた後の生活も視野に入れて支援を行う。インフォーマルサービスの紹介も積極的に行っている。  
(富竹の里)
- ヘルパー支援について、本人の希望より遠方の子から「安否確認ができる」と勧められ相談が入るケースが増えている。  
(博愛の園)

## 6 認知症を正しく理解し適切に対応できる環境づくり

〈自己評価の視点〉

市認知症ケアパスの活用 専門的なサポート体制の強化 認知症高齢者(家族)支援体制の強化

### 《業務実施事例》

- ケアパスを確認しながら、認知症初期集中支援チームへつなげている。 (吉田、若槻)
- 市認知症ケアパスを活用し、困難事例については、「認知症初期支援チーム」と連携して対応。また、お茶のみサロンに出向き、認知症のミニ講座を開催。 (芹田)
- オレンジカフェの立ち上げに協力し、その後も毎回相談支援に関わっている。 (安茂里、にしつるが、富竹の里)
- オレンジカフェの開催と参加の促し (ニチイケア、芹田、新町病院)
- 介護者教室としてオレンジカフェを開催。小グループを作り、同じ悩みを持った家族同士、加えて専門職・ボランティアが入り、集いを行った。 (星のさと)
- キャラバンメイトの定例会に出席し、活動について助言・指導した。 (わかほ)
- 民生児童委員を対象に、認知症サポーター講座を開催。 (ニチイケア)
- 地区内の小学4年生と中学1年生に対して、認知症サポーター講座を開催。 (豊野)
- 住民自治協議会と連携し、オレンジカフェの周知、活動の促進を図った。また、自主介護予防クラブの参加者に対して、認知症に関する出張講話を開催した。 (きたながいけ)
- 認知症講演会を行い、地域住民や認知症高齢者の家族に、認知症への理解や支援を深めていただいた。 (篠ノ井病院)
- 一人暮らし、高齢者世帯が多いため、民生委員や地域住民が認知症状に気付けるような体制づくりが今後の課題である。 (新町病院)
- 半年に1度帰省する子が「まだ大丈夫」と思ってしまい、認知症や病状が放置された状態での事例がある。 (博愛の園)
- 民生委員から、認知症の方についての相談が以前より来るようになった。 (松代総合病院)

## 7 地域ケア会議

〈自己評価の視点〉

個別ケア会議の実施

地域ネットワーク会議の実施

長野市ケア会議への検討

### 《業務実施事例》

- 個別の地域ケア会議は、地域のケアマネジャー支援として6回開催。多職種の出席者から意見をいただくことで、ケアマネジャーから参考になったとの意見が寄せられた。 (豊野)
- 個別ケア会議を年間24回実施し、解決に向けて、支援を行った。 (松代総合病院)
- 認知症高齢者の自動車運転について、病院・警察・地域団体の代表者を招集して、具体的な支援計画を作成した。 (きたながいけ)
- 南警察署を講師に「高齢者の自動車運転」について講義を受け、その後地域での必要な資源についてグループワークを実施した。 (星のさと)
- 地域ネットワーク会議の結果について、広報誌を利用して地域へ報告した。 (ニチイケア)
- 地区の生活支援体制整備会議に出席し、地域のネットワークづくりについて定期的に話し合っている。 (コスモス)
- 病院退院時に今後在宅で支える関係機関との顔合わせを行った。互いに連携が取りやすくなり、また本人の状況を共有することで問題点や支援方法を擦り合わせることができた。(三輪)

## 8 地域における生活支援コーディネーターとの連携

〈自己評価の視点〉

- ①生活支援コーディネーター（地域福祉ワーカー）との連携による生活支援・介護予防の活動づくりを行っている。

《業務実施事例》

- 地域福祉ワーカーと協力し、介護予防クラブ「はつらつ倶楽部」体験講座を実施した。（桜ホーム）
- 地域の生活支援体制整備に向け、包括支援センターが講師や相談役として住民自治協議会と連携しながら、話し合いや各種教室に参加している。（三輪）
- 地域福祉ワーカーと連携し、地区検討会の立ち上げへの協力及び住民主体の活動の場の運営を支援した。（安茂里）
- 住民自治協議会と協力して、生きがいデイサービスの後継事業として新たに「通いの場」事業を立ち上げ、現在月2回活動している。（豊野）
- 「はつらつ運動講座」ができていない地域の役員に働き掛け、夜間や休日などに説明会を開催して、介護予防の場作りに取り組んだ。（コスモス）
- 地域福祉ワーカーと電話やメールで情報共有を行うとともに、地域づくりや体操教室、地域の福祉イベントの打ち合わせなど、地区役員が集まる場に参加した。（若槻ホーム）
- 地域の社会資源をmapにまとめた。今後、関係団体等に配布予定。（星のさと）
- 住民を対象にした意識調査のためのアンケートの作成に携わった。（新町病院）
- 地区内自主グループへ定期的に訪問し、活動支援を行なっている。介護予防教室受講者に「自主グループ化に向けての教室（かがやきひろば）」受講を促し自主グループ立ち上げを支援している。（宮竹の里）

## 9 その他

《業務実施事例》

- 年4回センター独自の広報誌を発行し、地域の活動や情報、長野市の施策や取り組みを紹介している。（きたながいけ）